

▲タリン音楽祭 3万人のうたい手、聴衆は20万人余 (撮影は同行の高橋正志日本のうたごえ事務局長)



歌声と花の交歓、人間讃歌の

タリン音楽祭 熊谷 勇二(広島合唱団)

一八九九年から百十年にわたって五年に一度開かれる、出演者三万人、観客は二十万人というタリン音楽祭は北海道合唱団が招待された。過去第一次、第二次訪ソに伴うさまざまな運動の蓄積があったの招待公演である。この音楽祭に広島のうちえ新専従の大野君と共に参加しないかと北海道合唱団木内団長に呼びかけられた。

タリンというのがどこにあるのか、そこでどんなことをするのかよくわからないままに、入国手続きだけは整えて、

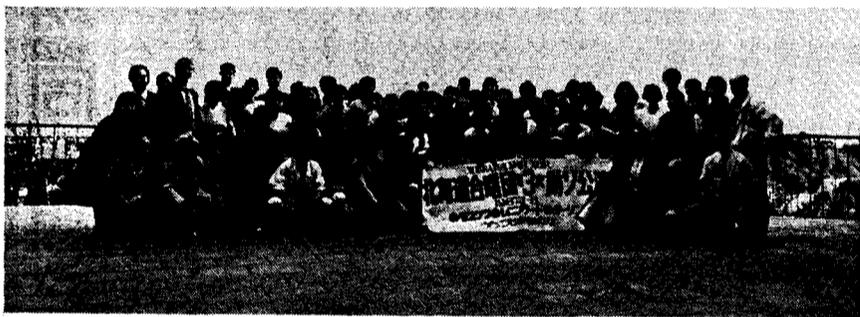
ところが、大野君の訪りが困難となりあれこれという間に私一人となってしまった。この忙しい時期(国労の再建で走り回っていた)に何をしにソ連などに行くのか、と訝(いぶ)かられるのではな

いかに恐縮しながら演奏曲の暗記に努めた。いろいろな準備に悪戦苦闘されている北海道合唱団の人たちには申しわけなく思いながらちやっかりと、厚かましくも一団に加えてもらった次第である。

同日十六時、モスクワのシエルメチエボ空港に到着。入国手続きで持ち物の検査、旅券の顔写真との比較と、いつもながらの不気味さを味わう。ここでひっかかったのが「鬼剣舞」で踊る時使う日本刀(三分)であったらしい。説明に手間どるので実際に踊ってみせたなど聞いた。その日のうちにモスクワ発の寝台車でレニングラードに向かった。

二十三日、まだ日本の夕刻のように明るい屋外のホームから長大の寝台列車は汽笛の音もなき走り始めた。レニングラードはトーポリの棉花が雪のように舞い、すべての建造物が、うっすらと茂る街路樹の中に古色蒼然と

タリン音楽祭紀行



▲タリンの丘で記念撮影、後列右端熊谷さん



▲レニングラード、パブロフスク宮殿前

レニングラードではパブロフスク青年宮殿に行き大公園の中で野外公演を行なった。初めての演奏で特に女性の着物が晴れやかで日本に居たのではあまり感じない日本女性の素晴らしさを知った。「鬼剣舞」、「三階のぶちあわせ太鼓」、轟く和太鼓にパブロフスク青年宮殿広場は人の波で一杯となった。

その日の夕刻、翌午前中レニングラード市内の有名な簡所をバスで走り、時々降りてソロソロ観光団一行よろしく見学。案内のツーリストの説明を翻訳の四人(サーンヤ、アンドレ、上村、野原)が縦横無尽に日本語で話してくれた。

余談になるが翻訳のサーンヤ、アンドレはナトホカ大学日本語科を卒業しサーシャは極東大学の先生、アンドレは今春、卒業したばかりの二十

立ち並び、まるで大地から生えてくるような歴史の重厚さを感じた。ネバ川のきらめき、歩く人々の姿、それはまさしくロシアであってロシア以外なものでもない。

レニングラードではパブロフスク青年宮殿に行き大公園の中で野外公演を行なった。初めての演奏で特に女性の着物が晴れやかで日本に居たのではあまり感じない日本女性の素晴らしさを知った。「鬼剣舞」、「三階のぶちあわせ太鼓」、轟く和太鼓にパブロフスク青年宮殿広場は人の波で一杯となった。

余談になるが翻訳のサーンヤ、アンドレはナトホカ大学日本語科を卒業しサーシャは極東大学の先生、アンドレは今春、卒業したばかりの二十

一歳の青年、どちらも美しい眼をした好青年で終始一貫、団員一行と、音楽を共にした。日本から参加した上村未知さんは東京外語大学ロシア語科卒、日ソ貿易東京支店常駐。今回の訪ソすべての面倒をみてくれた露独語境館の才媛スーパリーレイ。もう一人の野原さんは北海道大学のロシア語科卒で上村さんと同じ会社、今回補助で行動を共にした。

今思い出してもどのように表現すればよいのか、とてもペンで書ききれぬものではないタリンの三日間であろう。

この四人のたたちの語学力と人間性がどれほど大きな役割を果たしたかについては全団員が衆目一致するところである。

四日の午後、舞踊祭から場所を移し、古い建物が立ち並び旧市役所広場において屋外公演を行なった。きらめくような太陽の光の中、私たちは日本の芸能、平和の歌、闘いの歌、持ってきた演目すべてを、取り囲んだ観衆の前で披露した。

集まった人たちは歌詞は通じなくとも、上村さんの説明にうなづき、理解を共に深めている。この広場の公演は直接人々と接しられる、うたごえ運動の持ち味を最高に発揮できた感銘深いもののように思ったのは私だけではなかったであろう。

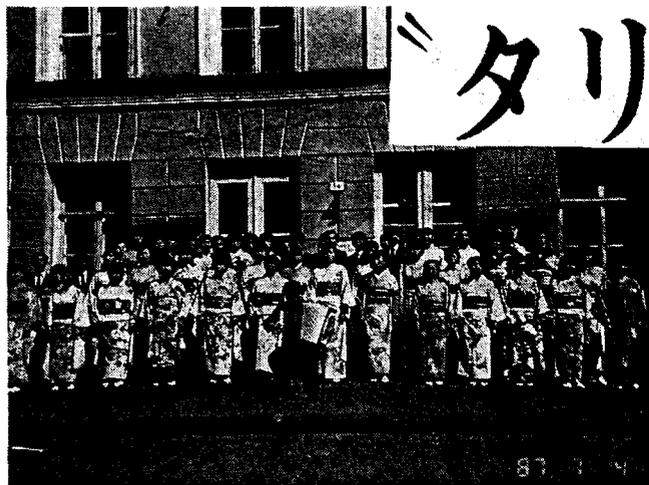
全団員と観衆のわかれはバラ、その他美しい花々の交歓でつつき、和服姿の女性団員と共に記念撮影をする人々はあとを断たなかった。

五日、目的の音楽祭は正午から噂どおり数十万人の観客が半ドーム型の舞台上大写真(三千人以上の子どもの合唱団を迎え、地上三〇分の聖火台に炎があがって大歓声によって始められた。

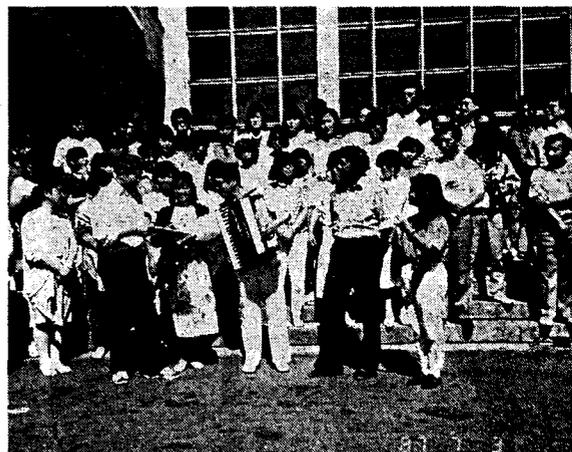
(11面に続く)



(カット=熊谷氏)



▲タリン市で、和服姿も好評



▲レニングラードのホテルの前で
運転手さんに贈り物とうたを

個人の平和は、世界の平和

感動の種、持ち帰り 谷内あけみ(北海道合唱団)

「白樺の幹は、美しいのび
て樫の木も育つ祖国の大地を」

森で埋めゆり、
私のロシアのイメージは、

この「森の歌」であり、彼
(シヨスタコヴィッチ)の 広がっていた。

彼は、こう言っている。
「私は北部ロシアで育つた。立派な森、つらなる野、豊かな濃緑色の枝の天蓋、びっしり交った厚い、香り高い葉と幹……」

私を酔わせた。「
五感を通して強烈なメッセージが
モスクワの上空から、ロシアの美しき、豊かき、果てしなく続く地平線、自信にあふれているかのように広がっている風景。」

ゆつたりと流れるネヴァ川、エルミタージュ美術館、古い街並みが白夜の薄明りにつつまれる光景は、本当に魅力的で美しい。
この日、博物館前で最初の公演が行われた。威勢のいい「えびす太鼓」で始まり、「鬼剣舞」「合唱」と続いた。

拍子をとる婦人、涙を流す老人、うたう人、ほほえむ人、聴衆の表情はさまざまだった。

私たちが「うたごえ」が彼等に熱い思いを起させ、その思いはまた私たちをも感動させた。「うたごえ」の原点に立たされたような気がした。

うたごえは何?

連載

必要に応じて次の様に語っておられます。
「生活とか現実とか、つまり自分だけでなく自分を含めたい。必要に応じて次の様に語っておられます。」

曲は昔の曲であらうと今の曲であらうと、これは全然委わりのない。うたごえ運動で今要求されているのは、その

「言いかえれば、演奏を聴いてよかったというだけでいい。あの人がどういふことを考えているか、そして何をうたっているか、何を我々に訴えかけているのかというところ」

「演奏の成功」「感動を与える演奏」の確率(?)は低いものになるでしょう。
国鉄広島ナッパースや、合唱団サボテンの演奏、昨年の「ぞうれっしや合唱団」の特に子どもたちの演奏の圧倒的な感動がどのように作られていったのか、その活動の背景から全サークル、合唱団が学びながら、魅力あふれる演奏活動をつくり出すために一人ひとりがいつも新鮮な気持ちで取り組ましよう。

「森の歌」は、いつも森のふしぎな歌は、いつも私を酔わせた。「
五感を通して強烈なメッセージが
モスクワの上空から、ロシアの美しき、豊かき、果てしなく続く地平線、自信にあふれているかのように広がっている風景。」

ゆつたりと流れるネヴァ川、エルミタージュ美術館、古い街並みが白夜の薄明りにつつまれる光景は、本当に魅力的で美しい。
この日、博物館前で最初の公演が行われた。威勢のいい「えびす太鼓」で始まり、「鬼剣舞」「合唱」と続いた。

拍子をとる婦人、涙を流す老人、うたう人、ほほえむ人、聴衆の表情はさまざまだった。

魅力的な演奏活動のために

現在のまわりの人たちがおられた現実を深く知ってこれば、その現実に対して正しく立場をもてまわらなければならない。音楽的な力をうけつけないで、その演奏は必ず成功し、感動を与えることができるだろうと信じています。

「生活とか現実とか、つまり自分だけでなく自分を含めたい。必要に応じて次の様に語っておられます。」

曲は昔の曲であらうと今の曲であらうと、これは全然委わりのない。うたごえ運動で今要求されているのは、その

「言いかえれば、演奏を聴いてよかったというだけでいい。あの人がどういふことを考えているか、そして何をうたっているか、何を我々に訴えかけているのかというところ」

「演奏の成功」「感動を与える演奏」の確率(?)は低いものになるでしょう。
国鉄広島ナッパースや、合唱団サボテンの演奏、昨年の「ぞうれっしや合唱団」の特に子どもたちの演奏の圧倒的な感動がどのように作られていったのか、その活動の背景から全サークル、合唱団が学びながら、魅力あふれる演奏活動をつくり出すために一人ひとりがいつも新鮮な気持ちで取り組ましよう。

「森の歌」は、いつも森のふしぎな歌は、いつも私を酔わせた。「
五感を通して強烈なメッセージが
モスクワの上空から、ロシアの美しき、豊かき、果てしなく続く地平線、自信にあふれているかのように広がっている風景。」

ゆつたりと流れるネヴァ川、エルミタージュ美術館、古い街並みが白夜の薄明りにつつまれる光景は、本当に魅力的で美しい。
この日、博物館前で最初の公演が行われた。威勢のいい「えびす太鼓」で始まり、「鬼剣舞」「合唱」と続いた。

拍子をとる婦人、涙を流す老人、うたう人、ほほえむ人、聴衆の表情はさまざまだった。

演奏技術は高いのに感動が来ない演奏、反対に、技術は低くても感動する演奏(うたごえ)感動させる様な演奏は、その技術が高度でなくともできるが……(に出会った)「うたごえ」は、なかなかにむづかしいですね。井上頼豊先生はうたごえが演奏とひとへむ場合に

必要に応じて次の様に語っておられます。
「生活とか現実とか、つまり自分だけでなく自分を含めたい。必要に応じて次の様に語っておられます。」

曲は昔の曲であらうと今の曲であらうと、これは全然委わりのない。うたごえ運動で今要求されているのは、その

「言いかえれば、演奏を聴いてよかったというだけでいい。あの人がどういふことを考えているか、そして何をうたっているか、何を我々に訴えかけているのかというところ」

「演奏の成功」「感動を与える演奏」の確率(?)は低いものになるでしょう。
国鉄広島ナッパースや、合唱団サボテンの演奏、昨年の「ぞうれっしや合唱団」の特に子どもたちの演奏の圧倒的な感動がどのように作られていったのか、その活動の背景から全サークル、合唱団が学びながら、魅力あふれる演奏活動をつくり出すために一人ひとりがいつも新鮮な気持ちで取り組ましよう。

「森の歌」は、いつも森のふしぎな歌は、いつも私を酔わせた。「
五感を通して強烈なメッセージが
モスクワの上空から、ロシアの美しき、豊かき、果てしなく続く地平線、自信にあふれているかのように広がっている風景。」

ゆつたりと流れるネヴァ川、エルミタージュ美術館、古い街並みが白夜の薄明りにつつまれる光景は、本当に魅力的で美しい。
この日、博物館前で最初の公演が行われた。威勢のいい「えびす太鼓」で始まり、「鬼剣舞」「合唱」と続いた。

拍子をとる婦人、涙を流す老人、うたう人、ほほえむ人、聴衆の表情はさまざまだった。

私たちが「うたごえ」が彼等に熱い思いを起させ、その思いはまた私たちをも感動させた。「うたごえ」の原点に立たされたような気がした。



▲タリンでうたいながら花を
左側の和服が谷内さん

子ども達の発達、人格形成にどうも、集団の中で音楽を享受する経験を持つことが意義深いことであり、個性の開拓として重要であり、音楽性を高め、音楽への愛をじっくり育てていく必要があり、そういう音楽教育の啓蒙がなされて、個性豊かな人間が社会に貢献する力を持つのではないだろうか。

音楽を通してあらためて思うことは、
個人が世界の構成単位であること。
世界の平和は、個人の平和。
個人の平和は、世界の平和。
タリンの三万人のコーラスや白樺の森をそのまま持ち帰ることはできないが、私にとって初めての訪ソ公演で得た知識と経験が、種の形で持ち帰り、行動、これは思考に表わすことによって十分な価値にまで成長させたいと思う。木全体を手の中にのせることはできない。